

通し番号	4484
------	------

分類番号	22-34-13-01
------	-------------

(成果情報名) ナシ樹体ジョイント仕立て専用の2年生苗育苗法	
<p>[要約] 主要品種‘幸水’において、容量12Lの不織布ポットを利用し、先端から2本の新梢を伸ばす直立育苗により、安定的に株間1.5mに定植可能な全長330cm程度のジョイント仕立て専用の2年生苗が生産できる。この育苗法は移植労力や定植後の植え痛みも軽減され、新品種の‘香麗’‘なつみず’‘なつしずく’等にも適用が可能である。</p>	
(実施機関・部名) 農業技術センター・果樹花き研究部	連絡先0463-58-0333

[背景・ねらい]

ナシ樹体ジョイント仕立ては、改植を推進する新たな省力的栽培法として各産地への導入が始まっており、その促進のためには十分に伸長した苗木の育成が重要である。そこで、全長330cm以上、移植労力や植え痛みも軽減できるジョイント専用2年生苗の育苗法を開発する。

[成果の内容・特徴]

- 1 2年生苗の移植労力と植え痛み軽減を目的とした不織布ポット育苗は、小型の容量12Lポットでも苗の生育に影響がなく、苗掘り取りも簡易に短時間で可能なことから(データ省略)、開園時に苗数を必要とするジョイント仕立ての育苗法として有効である(表1)。
- 2 育苗用土は赤土とバーク堆肥を2:1の割合で混合したものを、上部が5~10cm出る程度に半地中に埋設し、十分周辺土壌と密着させる(図1)。
- 3 化成肥料を5~8月に月1回施用し(窒素量でポット当たり2g程度)、自動灌水施設等を利用して春、秋期1日1回、夏期朝夕2回、ポット周辺の土壌まで十分湿る程度に灌水を実施する。
- 4 120cm前後に切り返した苗先端から2本の新梢を伸ばす、ジョイント専用苗の仕立て法は、新梢を1本伸ばしたポット育苗と当年枝長に差は認められず、前年枝の基部径が有意に太くなる。また、新梢を1本伸ばした地植え育苗より有意に当年枝が長くなる(表2)。
- 5 この手法を用いた新品種‘香麗’、‘なつみず’や‘なつしずく’等のジョイント専用苗は、極めて良好な生育を示し、当年枝の長さが‘幸水’と比較して有意に長く伸長し、株間2.0mに定植可能な当年枝長250cmを超える苗も‘香麗’、‘なつみず’では約70%得られる(データ省略)。ただし、樹勢の弱い‘秋麗’については十分な苗伸長が得られない(表3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 5月中旬から8月末の間に苗の伸長が一時的に止まる「止め葉」の発生が認められた場合、直ちに先端部を摘心(ピンチ)し、苗の再伸長を促す。
- 2 摘心等で絶えず先端部の伸長を促す育苗では、夏期に発生するチャノキイロアザミウマ、ニセナシサビダニ、アブラムシ等の害虫防除が重要である。
- 3 2本の新梢は、主枝誘引時に折れた場合等の予備枝として、ジョイント完成まで剪除せず残しておく。

[具体的データ]

表1 不織布ポット育苗が‘幸水’育苗時の生育に及ぼす影響(H18年)

育苗法	苗全長 (cm)	2次伸長長 (cm)	前年枝 基部径(mm)	当年枝 基部径(mm)
12Lポット	321	33	21	14
20Lポット	320	34	20	13
地植え	297	44	21	13
有意性 ^z	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

^z 有意性は Tukey 多重検定による。異なる英文字間で有意差あり



図1 不織布ポットの半地中埋設

表2 苗の仕立て法の違いが‘幸水’育苗時の生育に及ぼす影響(H19年)

仕立て法・育苗法	苗全長 (cm)	2次伸長長 (cm)	前年枝 基部径(mm)	当年枝 基部径(mm)
新梢 2.0本・ポット	340a	61	21.4a	14.4
新梢 1.0本・ポット	328a	65	19.8b	13.7
新梢 1.0本・地植え	322b	68	21.5a	13.6
有意性 ^z	*	n.s.	**	n.s.

^z 有意性は Tukey の多重検定による。異なる英文字間で有意差あり

表3 ジョイント仕立て専用2年生苗の品種別生育量の比較(H22年)

品種名	前年枝長 (cm)	当年枝長 (cm)	総当年枝長 ^y (cm)	前年枝 基部径(mm)	当年枝 基部径(mm)
香麗	106 b	264 a	506 a	19.4 ab	12.7 a
なつみず	112 ab	263 a	482 a	18.6 b	11.3 b
なつしずく	117 a	249 a	457 a	19.9 ab	11.4 ab
秋麗	114 ab	146 c	264 c	19.3 b	10.7 b
筑水	115 a	235 ab	410 ab	19.7 ab	10.2 b
幸水	111 ab	205 b	363 b	21.4 a	12.8 a
有意性 ^z	*	**	**	**	**

^z 有意性は Tukey の多重検定による。異なる英文字間で有意差あり

^y 総当年枝長は2本の先端新梢長の合計

[資料名] 平成18～22年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] (1) 樹体ジョイント仕立て法の栽培特性の解明及び栽培システムの開発
ア ナシ園の超早期成園化技術の開発

[研究期間] 平成18～22年度

[研究者担当名] 柴田健一郎、曾根田友暁、関達哉、小林正伸